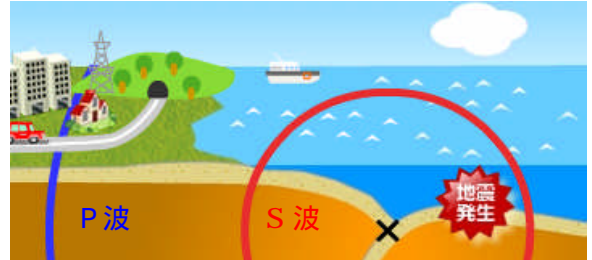


気象庁が中心となり提供が始まった「緊急地震速報」について、TV や新聞など各メディアでご存知の方が多いと思います。最も身近なメディアとしてTV やラジオによって速報が伝えられるようになりましたが、果たしてそれだけで十分と言えるでしょうか？ZTV でも CATV 回線を使用した緊急地震速報サービスをご提供させていただいておりますが、違いについては把握されているでしょうか。今回は簡単に仕組みをおさらいし、「マルチエリア予測演算」など CATV ならではの優位性について取り上げたいと思います。

仕組み

地震には、揺れが小さいP波（初期微動）と呼ばれるものと、その後に来る揺れの大きなS波（主要動）があります。地震計でP波を観測した後に、S波の到達前に緊急地震速報として震度や到達時刻等の情報が発信されます。



CATV 回線による速報の優位性

TV で使用している宅内の同軸ケーブルを分配し、専用の受信端末を設置します。気象庁から配信される地震情報を元に、地震の規模を解析し、地域毎に情報を算出します。速報を受信すると地震の予測震度と予測到達時間を音声でお知らせします。

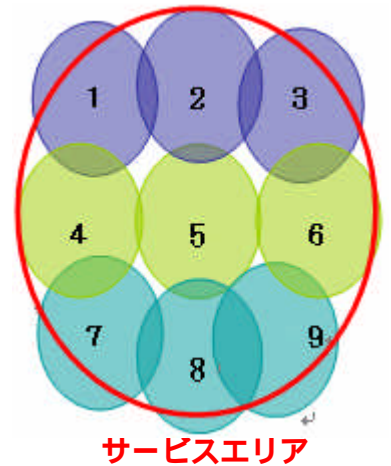
ZTV の緊急地震速報サービスでは、TV やラジオでの発信に比べて、いくつかの優れた特徴を備えています。TV やラジオの場合、視聴していないと情報を得ることができませんが、ZTV の場合は専用端末が常時スタンバイしていますので、いつでも瞬時にお知らせすることが大きな利点となっています。

また、TV やラジオの場合は広域の情報しか流すことができませんが、ZTV の場合は細分化した地域毎に揺れの予測時間と予測震度を算出できるため、より具体的な情報をお知らせすることができます。地域毎に情報をお届けするために、「マルチエリア予測演算」を行っています。

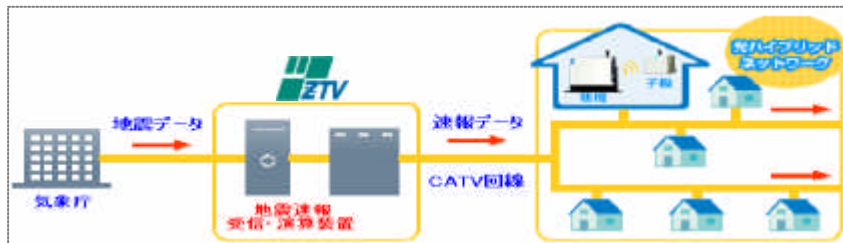
マルチエリア予測演算

S波の到達速度は3~4km/秒のため、それぞれの設置端末の距離が20km離れているとすると、最大で5~7秒のズレが発生することになります。また、エリア内の地盤の違いでさらに誤差がでてきます。

これらの誤差を是正するため、マルチエリア予測演算装置によりZTVのサービスエリアを細かく分けて、緯度・経度、地盤振幅率を設定し個別に予測演算を行い、予測到達震度・到達までの時間をそれぞれのエリアに送信を行うことで、各設置端末までの到達誤差を少なく発信できるようにしています。



細分化した
エリア毎に配信



ZTV が提供する緊急地震速報サービスは、マルチ予測演算などの仕組みにより、速報を効率よく高い精度でお届けすると同時に月額315円という低価格を実現したサービスです。特性をご理解いただき、是非導入をご検討いただければと思います。



詳しくはZTVのホームページをご覧ください！
<http://www.ztv.co.jp/campaign/jishin/>